

# 一般社団法人実践的プロジェクトマネジメント推進協会（PPMA）の紹介

「定量的プロジェクト管理ツール（EPM-X）」の利用促進をもとに、実践的プロジェクトマネジメントの普及を目指す。

一般社団法人実践的プロジェクトマネジメント推進協会（PPMA）代表理事

今井 元一



2012年7月に発足した一般社団法人実践的プロジェクトマネジメント推進協会（PPMA<sup>※1</sup>）は、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が開発しオープンソースとして公開した「定量的プロジェクト管理ツール（EPM-X<sup>※2</sup>）」の普及活動を担う民間移管先として、2013年4月より正式に認定されました。PPMAでは普及セミナーの開催や導入コンサルティング、EPM-XのASPサービスの提供など様々な活動を通じて、実践的・定量的なプロジェクトマネジメントの紹介・導入支援に努めている。

## 1 はじめに

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）技術本部ソフトウェア高信頼化センター（SEC）では、第二期中期計画（2008年4月～2013年3月）において、ソフトウェア開発プロジェクトの定量的な見える化を重点施策の一つとして取り組んできました。その成果として、定量的プロジェクト管理ツール「EPM-X」を開発し、2012年4月にオープンソースとして公開しました。

EPM-Xの公開は想定以上の反響をいただき、既に一万件を超えるダウンロード実績があります。中には小規模な範囲で試行をしたり、部門内での本格的な運用を開始した企業もあります。

2012年7月にEPM-Xの企画・開発に携わった有志により立ち上げられたPPMAは、EPM-Xの利用促進を通じた実践的なプロジェクトマネジメントの普及／運用支援により、ITプロジェクトの健全化を実現し、我が国産業界の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的としています。2013年4月からは、IPA/SECから正式に移管を受け、EPM-Xの普及に関する多様な活動を実施しています。

## 2 定量的プロジェクト管理ツール（EPM-Xとは）

EPM-Xは、ソフトウェア開発プロジェクトにおいて、タスクの進捗、課題・障害の解決状況、工数の予実等を適切に把握するためのツールです。プロジェクト進捗過程で発生する定量的なデータを用いて、品質や進捗の状況をグラフィカルな画面を通じて定量的に把握できるようになっています。

その機能を利用して、リスクを可視化し、問題を早期に発見する定量的プロジェクト管理を実現することができます。

また、相対的に遅れているプロジェクト管理ツールの普及を促進するため次のような考慮が施されています。

- ・ 一括インストーラの提供により深い技術スキルがなくとも容易に環境構築できる。
- ・ 開発の現場でよく使われている実績あるオープンソースで構成しているため馴染みやすい。

課題管理 : Redmine, Trac

版管理 : Subversion, Git

### 【脚注】

- ※1 PPMA: Practical Project Management Association
- ※2 EPM-X: Empirical Project Monitor Extended

BI ツール : Birt

ETL ツール : Pentaho

EPM-X の機能上の特徴について、以下に説明します。

### (1) グラフによる視覚的なレポートイング

EPM-X では、各定量データの収集・集計結果を、自動的にグラフ表示し、定量データによる状況の把握を視覚的に行えるようになってきました。グラフの形状変化により、プロジェクトに異常が発生し始めた兆候を直感的に気づくことができるところが、高評価を得ています。

EPM-X が提供している多様なグラフを一覧の形で表 1 に示します。

### (2) チケット駆動開発

チケット駆動開発とは、作業をタスクに分割し、おののおにチケットを割当て、チケットの状態をモニターしながら開発プロジェクトを進める開発スタイルのことです。

チケットには、「担当者」が割り当てられ、「作業中」「完了」などのステータスを報告することによって、タスクの進捗状況が把握できます。EPM-X は、チケット駆動型開発のプロジェクト管理プラットフォームである Redmine や Trac を中核として構成されています。

### (3) 定量データの自動収集

定量的なプロジェクト管理の普及を阻害している最大の要因として、データ入力・収集の手間があげられる。この対策として、EPM-X では、Redmine や Trac などのプロジェクト管理プラットフォームのチケットから進捗情報や障害情報を、Subversion や GIT などのバージョン管理ツールから変更情報を、自動的にデータとして収集することで、運用負荷の低減を図っています。

### (4) データの可用性

定量データの可用性を高めるために、EPM-X では、チケットデータと Microsoft Excel、Microsoft Project、CSV 形式データとの相互変換機能を提供しています。また、グラフデータについても、PDF、Microsoft Word、Microsoft PowerPoint 形式の文書として保存が可能とし、

表 1 表示グラフ一覧

グラフ名	概要
1) WBS (タスク)・品質管理グラフ	
試験計画項目密度	試験項目のカバレッジを確認
試験進捗率	試験項目の進捗を確認
WBS 進捗推移	プロジェクトの進捗推移の把握
WBS 進捗変化	プロジェクトの生産性変化を把握
EVM 評価	EVM による生産価値把握と将来予測
ソフトウェア規模推移	ソースコードによる規模の推移、及び計画値との対比
工数の予実	開発工数の予実把握と完了工数の推定
遅延重要タスク抽出	進捗の遅れている WBS (タスク) を抽出
2) 障害・課題管理グラフ	
障害件数変化	障害件数、未解決数の推移、計画値との対比を把握
障害解決予測	障害の未解決数と解決生産性から、解決完了日を推測
障害原因分析	現在の障害の数を原因別に分類
障害発生密度	開発品質の把握
障害滞留状況	長期間解決されていない障害を抽出
長期未解決課題抽出	長期間解決されていない課題を抽出
3) 負荷管理グラフ	
負荷状況	開発グループ/開発者の負荷を把握

報告書の作成に対する利便性向上を図っています。

### (5) 柔軟性・拡張性

使用しているオープンソースのツールや環境は、普及度が高く一般的に使われているものを選んでいきます。また、プログラム、データベース、インターフェイスも公開しているため、定量データ項目の追加やグラフの追加などを、比較的容易に自由に利用者が行えるようになっています。

## 3 PPMA の事業活動

PPMA では EPM-X の普及拡大、及びオープンソースとしての継続的提供を目指し次のような活動を行っています。

### (1) EPM-X 広報・普及活動

PPMA では、次のような広報・普及活動を行っています。

#### ① EPM-X 紹介のための無償セミナーの開催

2013 年 3 月以降 12 月までに 8 回実施。普及活動のために、IPA/SEC との共催を中心にほぼ 1 ヶ月に 1 回のペースで開催しており、今後も継続する予定である。

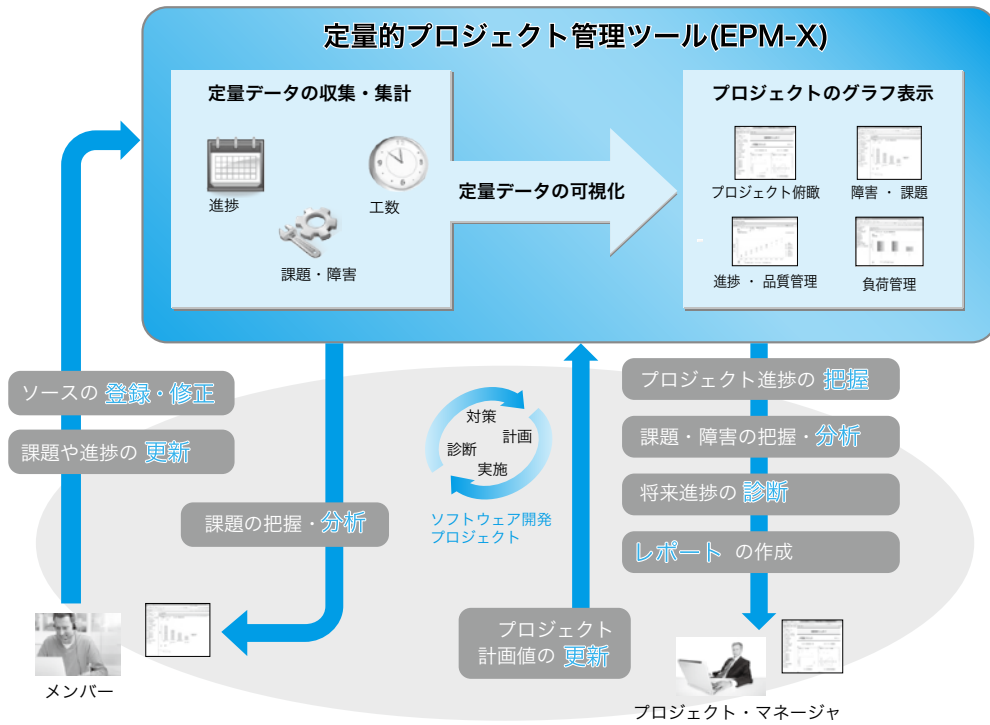


図1 システム概要図



図2 ツール構成図

② 展示会への出展

組込み総合技術展 (ET2012,ET2013) のIPA ブースやベンダーセミナーでEPM-Xの紹介を行っています。

③ 企業、団体の個別訪問による紹介

企業・団体・勉強会などへの個別訪問を多数行い、定量的なプロジェクト管理の意義と EPM-X の紹介

を行っています。

(2) EPM-X に関する技術開発の検討

利用者や EPM-X セミナー参加者の声を受け、PPMA では EPM-X の機能の改善について継続して検討しています。また、プロジェクトの定量的見える化の基本コンセプトに従った適用範囲の拡大についても重点課題とし



て捉え今後の技術開発計画に反映していきたいと考えています。

#### ① プロジェクト管理ツールとしての機能強化

EPM-X を構成するミドルウェア、OS の最新バージョンへの対応に関しては継続的に検討を進めています。また、文書管理のサポートも上流工程のドキュメントを中心としたプロセスの管理に不可欠との認識から然るべきタイミングで機能強化を図りたいと考えています。

#### ② 組込みソフトウェアを中心としたソフトウェア高信頼化への貢献

ソフトウェアの高信頼化に向けては開発段階でのレビューの実施状況や障害発生状況を監視・管理するとともに、出荷後／運用段階での障害情報の適切なフィードバック等の定量データにもとづく一貫した品質管理が重要です。また開発プロセスに起因する品質問題への対応を円滑に進めるためにもプロセスのパフォーマンスを定量的に表現し恒常的に改善を図る必要があります。EPM-X の基本的アーキテクチャを品質管理やプロセス評価に適用することは極めて効果的であると考えています。

#### (3) EPM-X の ASP による提供サービスの開始

EPM-X の本格的な活用を計画している利用者からの強い要望に応じて、PPMA では ASP サービスによる EPM-X 利用環境の提供を 2013 年 8 月より開始しています。これは、サーバーやネットワークの調達、導入・運用のための技術者の確保等、EPM-X の利用開始に必要なハードルを下げることを目的としています。

単に環境を用意するだけでなく、準備作業から運用の支援までライフサイクルを通してのコンサルティング

サービスも提供しています。

#### (4) PPMA サービスメニューの整備

PPMA や EPM-X への関心の高まりに対応するため次のような施策を開始しました。さらに 2013 年 10 月より PPMA のホームページを一新し、協会の活動の活性化に努めています。

##### ① 会員制度の刷新

利用者のニーズに対応し情報発信や相互交流を活性化するため会員制度を改訂しました。会員は主にスタンダード会員（無償会員）、アドバンスト会員（有償会員）の 2 タイプとし、法人のみならず個人の参画を促進しています。また、この会員制度をもとに EPM-X コミュニティの形成をも目指しています。

##### ② 情報発信の強化

PPMA ホームページの刷新と同時に当協会ホームページからも EPM-X をダウンロードできるサービスを設置しました。さらに、最新のサポート情報や EPM-X セミナー等での講演資料をアーカイブとして公開したり、頻度の高い一般的な質問に対しては FAQ を整備し公開に向けて準備中です。

## 4 終わりに

PPMA は、発足してまだ 2 年目という若い協会ですが、オープンソースである EPM-X を通じて定量的なプロジェクトの見える化を積極的に推進していきたいと考えています。

本格的な会員募集を始めてから、まだ 3 ヶ月ほどですが、既に 170 名を超える会員の登録をいただいております。会員間の相互交流の中や、事例研究などを通じて、実践のための知識の共有化等に重点的に取り組んでいきたいと考えています。

また、国家プロジェクト TERAS をはじめとしてソフトウェアの高信頼化への貢献を目指す企業・団体と連携をしつつ、広汎な領域でのプロセスの定量的マネジメントの普及拡大に努めていきたいと考えています。

PPMA は、オープンソースである EPM-X を利用した定量的なプロジェクト管理が日本のスタンダードとして広く日本の産業界に定着し、さらに、グローバルな市場も含めて、多様な領域におけるプロセスマネジメントへの適用を目指して活動して行く所存です。